

SRC 自主調査の調査結果について

【第5回】新型コロナウイルス感染症に関する調査 東京都民アンケート

東京都での感染拡大に都民がどのように考えるか!

- 株式会社サーベイリサーチセンターは、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、2020年3月以降、様々なテーマで自主調査研究を行ってきました。
- 2021年8月の東京都での感染再拡大の局面で、8月13日～8月16日にかけて東京都民アンケートを実施し、感染防止の意識・行動や感染症関連で公表されている指標の理解、ワクチン接種の動向、今後の将来的なデフォルトへの意向やインセンティブについて調査しまとめました。
- この調査は、15歳以上のインターネットリサーチモニターから1008人(10代から70代の性別14区分について各72サンプル割付)の回答を得たもので、集計は性年代人口で補正しています。

■ 調査結果のポイント

1. 感染への不安度

※【 】内はこのレポートの該当ページ

- 「とても不安を感じる」と「やや不安を感じる」を合わせた《不安度》は77.7%【P2】
- 弊社過去の全国調査(2020年 3月、4月、6月、11月)と比較すると、東京都で感染拡大している中でも不安度には時系列的に変化はない。但し、過去の調査時点と異なるのは「ワクチン接種の普及」であり、不安度が極端に増加していない理由として「ワクチン接種したから」という考えもある。

2. 新型コロナウイルスに関して不安を感じる理由また不安を感じない理由

- 不安理由は、「感染者数」が70.7%、「デルタ株による感染確率の高まり」65.0%、「医療現場が逼迫している」57.3%等が主な不安要素【P3】
- 非不安理由は、「心配しても仕方がない」が43.8%と諦め感がある一方で、「ワクチンを接種したから」が42.1%を主として対策を講じているという感覚もある【P4】

3. コロナウイルス感染関連で公表する数値指標への理解と危機感

- 日々公表される数値指標からの危機感は、「1日の重症者数」では54.4%が危機感を持ち、「1日の入院者数」では62.7%、「陽性率」では51.0%、「病床逼迫・医療崩壊」のキーワードでは60.5%であった。【P5～9】
- 但し、それぞれの指標に対して「理解・イメージしづらい」との回答も多く、わかり易くするためには、公表指標と医療現場の状況や救急体制との連関等を示して訴求するなどの変化が望まれている。【P5～9】

4. 自らができる感染抑制対策

- 「他人との接触の5割以上の削減」は49.5%ができるとしているものの、「4割以下」や「できない」としている人が33.1%となり、50代以下と60代以上では自身の感染抑制対策に大きな差がある。【P11】
- 「他人とのマスク無しの会話・接触を「0」にできる」と考える人は36.1%で、10代から30代では他の年代より低くなる。【P11】

5. ワクチン接種効果と自身の接種状況及び非接種者のインセンティブニーズ

- 現時点の年代別感染状況をみて「ワクチンの効果」を感じている人は63.2%と3人に2人は効果を認識。【P12】
- 自身のワクチン接種の状況は「1回目以上の接種が完了」している人は58.7%、「2回目まで完了」している人41.2%。【P13】
- 現時点でのワクチン非接種者の今後の意向は「接種するつもりはない・わからない」との回答が41.6%となり、どの年代でも4割程度は存在する。また、非接種者の接種に向けてのインセンティブでは、「商品購入ポイント」(16.5%)や「商品券や図書券」(16.3%)でニーズが多い。【P14】

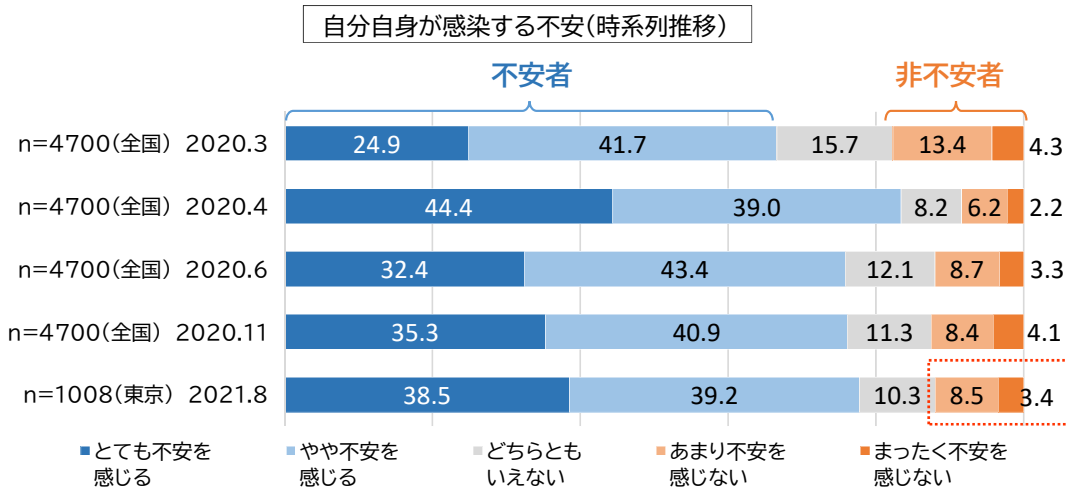
6. 感染症拡大の抑制行動(接種券・陰性証明等のデフォルト設定及びインセンティブニーズと今後の拡大防止策)

- 海外諸国での「接種証明や陰性証明」提示の政策については、「良いと思う」(37.1%)と「まあ良いと思う」(27.9%)を加えると65.0%が肯定的【P15】
- 「接種証明や陰性証明」提示をデフォルトとして設定した場合のインセンティブでは、「国内外の旅行や移動が自由にできる」が39.1%、次いで「飲食店に入店できる」(35.5%)、「レジャー施設や遊戯施設に入場できる」(29.8%)が上位となっている。【P15】
- 今後の感染拡大抑制対策としては「ワクチン接種を急ぐ」が53.0%、「短期的なロックダウン」が52.6%、「公園や路上等での外のみでの厳罰化」が43.6%、「入院できる病床の拡大」が40.3%等が主な対策ニーズとなる。【P16】

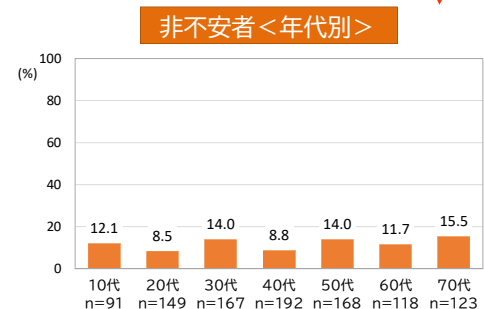
■ 自分自身の感染や重篤化に対する不安

自分自身の感染への不安について

- 自分自身の感染については「とても不安を感じる」が38.5%、「やや不安を感じる」が39.2%とこれらを加えたは77.7%の人が不安を感じている。一方で「あまり不安を感じない」が8.5%、「まったく不安を感じない」が3.4%となり、これらを加えた非不安者は11.9%となる。
- この結果を、過去4回の弊社の全国調査結果と比較すると、東京都での感染拡大の時期であるのにも関わらず、2020年11月(第4回全国調査)調査結果とほとんど変わらない結果になった。

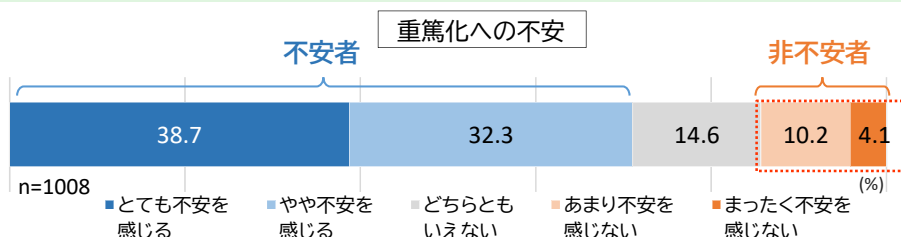


- 非不安者の年代別の特徴は、「70代」で15.5%と最も多く、次いで「30代」と「50代」で14.0%となっている。

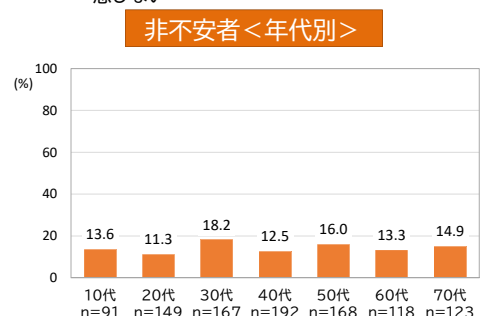


自分自身の重篤化への不安

- 自分自身が感染し重篤化することについては、「とても不安を感じる」が38.7%、「やや不安を感じる」が32.3%と、これらを加えた71.0%の人が重篤化への不安を持っている。一方、重篤化についての非不安者(「あまり不安を感じない」「まったく不安を感じない」)は14.3%となる。



- 非不安者の年代別の特徴は、「自分自身が感染する不安」と同傾向で、「30代」が18.2%と最も多く、次いで「50代」が16.0%となっている。

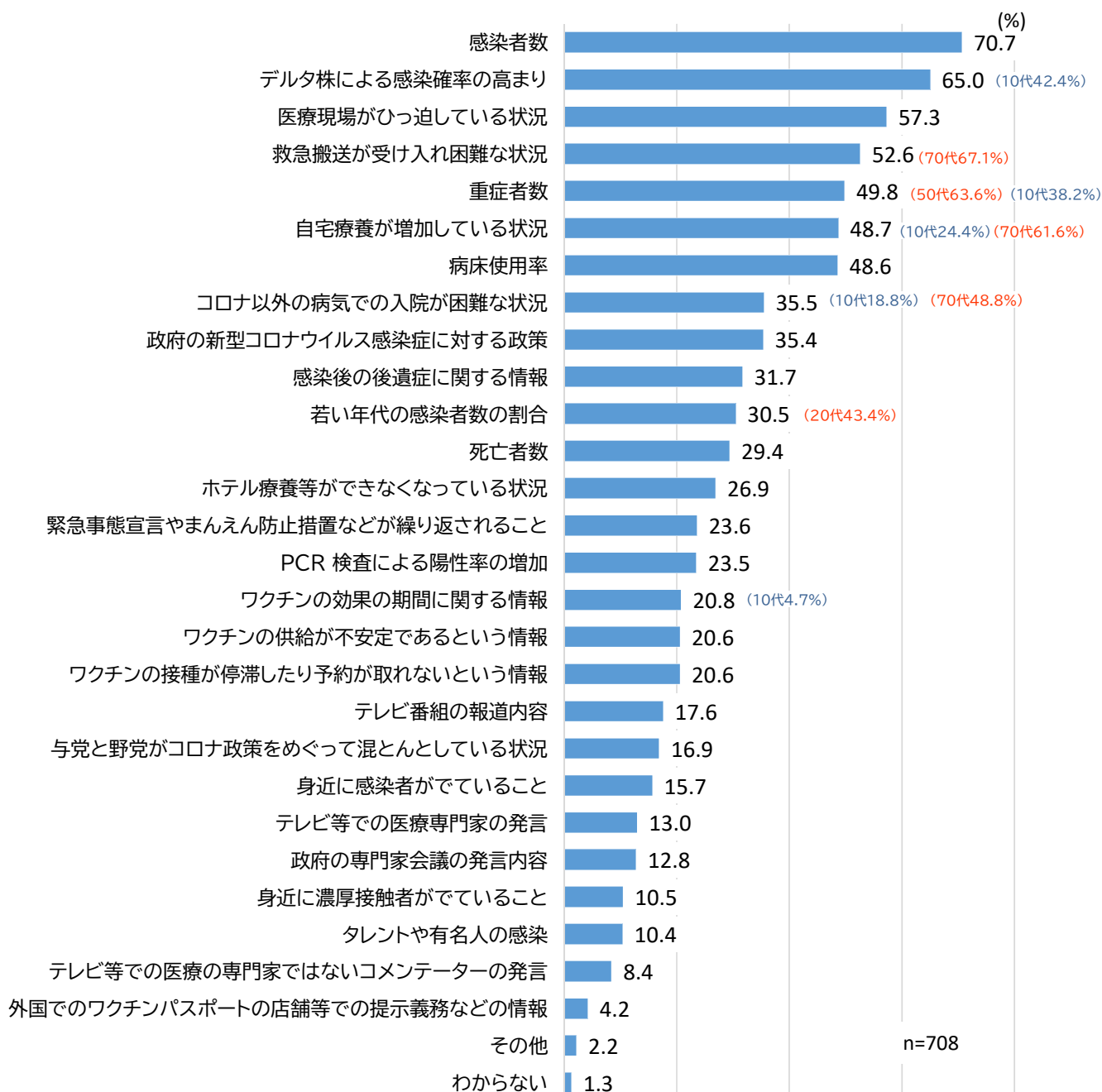


■ 感染不安の理由

自分自身が感染する不安理由

- 自分自身が感染する不安を持つ人(n=708)の具体的な不安理由は、「感染者数」が70.7%と最も多く、「デルタ株による感染確率の高まり」が65.0%、「医療現場がひっ迫している状況」が57.3%、「救急搬送が受け入れ困難な状況」が52.6%が概ね半数以上が不安に挙げている項目である。
- 次いで「重症者数」が49.8%、「自宅療養が増加している状況」が48.7%、「病床利用率」が48.6%となり、おおむね半数弱の方が不安に挙げている。

自分自身の感染への不安理由

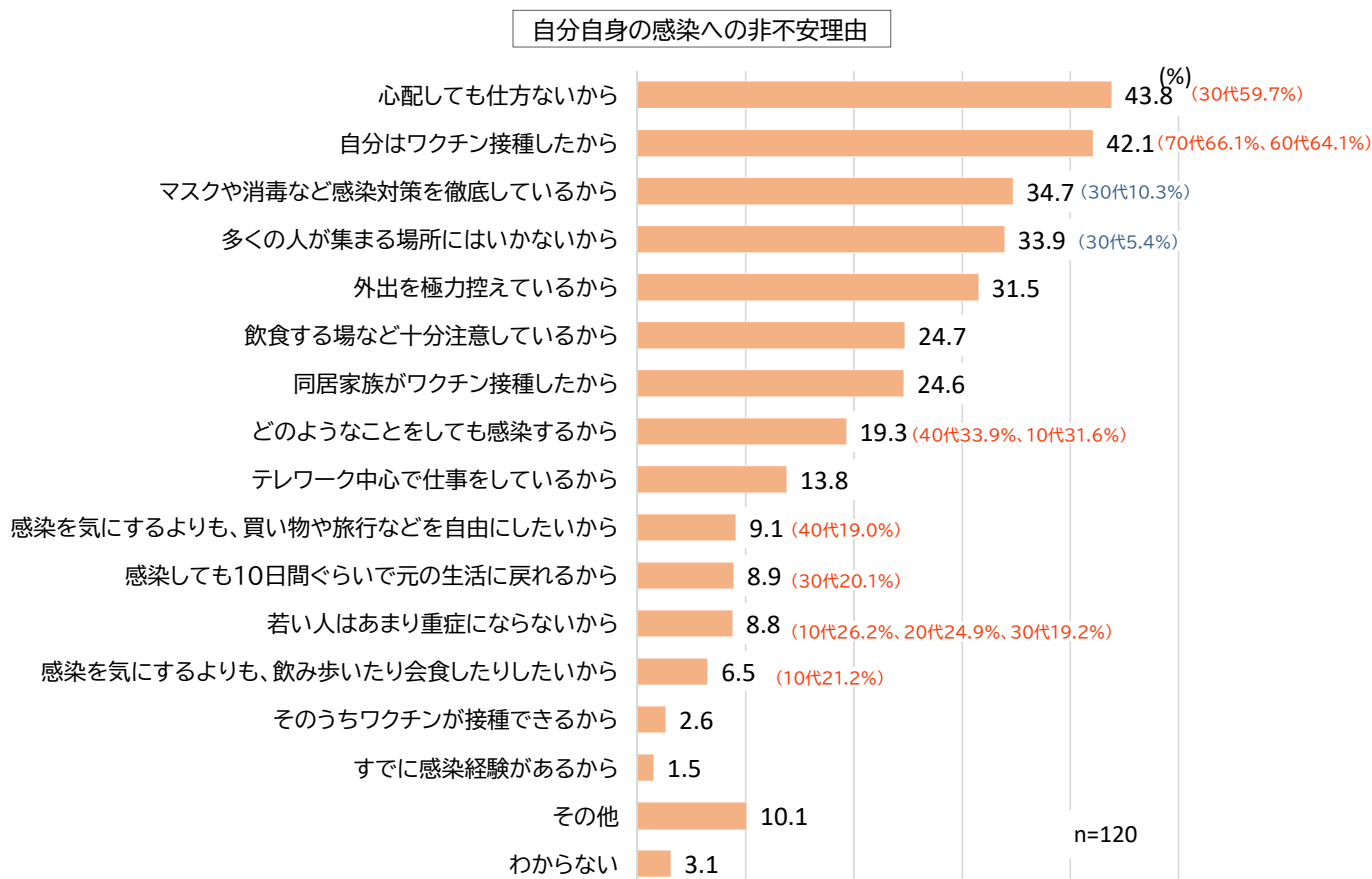


※「とても不安を感じる」「やや不安を感じる」と回答した人ベース

■ 感染非不安理由

自分自身が感染する不安を感じない理由

- 自分自身が感染する不安についての非不安者(n=120)について、その理由を聞いた。
- 最も多い理由は、「心配しても仕方ないから」との回答が43.8%で、ある意味諦めていると思われる回答であった。次いで「自分はワクチン接種したから」が42.1%、「マスクや消毒など感染対策を徹底しているから」が34.7%、「多くの人が集まる場所にはいかないから」が33.9%、「外出を極力控えているから」が31.5%となり、いわゆる十分な対策をとっている事項が挙げられる。



※「あまり不安を感じない」「まったく不安を感じない」と回答した人ベース

- 「心配しても仕方ないから」という特徴的な諦めた理由を挙げた人は全年代で多く、特に「30代」では59.7%となる。
- しかし一方で、「60代」「70代」でもこうした考えを持つ人も多く、世代間に相違はなく一定程度の割合で存在する。
- 全体と比較して特徴的な理由は「若い人はあまり重症にならないから」との理由で「10代」では26.2%、「20代」では24.9%となり、デルタ株以前の情報がそのまま意識として残っている人が4人に1人はいることになる。

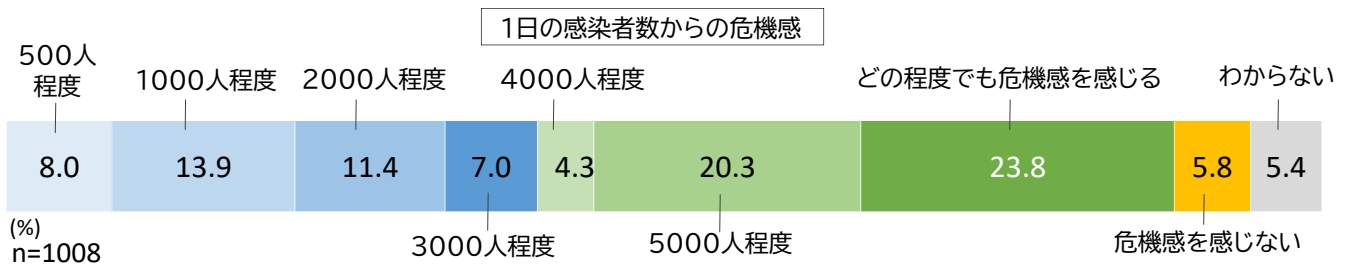
「心配しても仕方ないから」との回答

10代 (n=91)	37.7 %
20代 (n=149)	28.6 %
30代 (n=167)	59.7 %
40代 (n=192)	44.6 %
50代 (n=168)	34.5 %
60代 (n=118)	47.0 %
70代 (n=123)	46.1 %

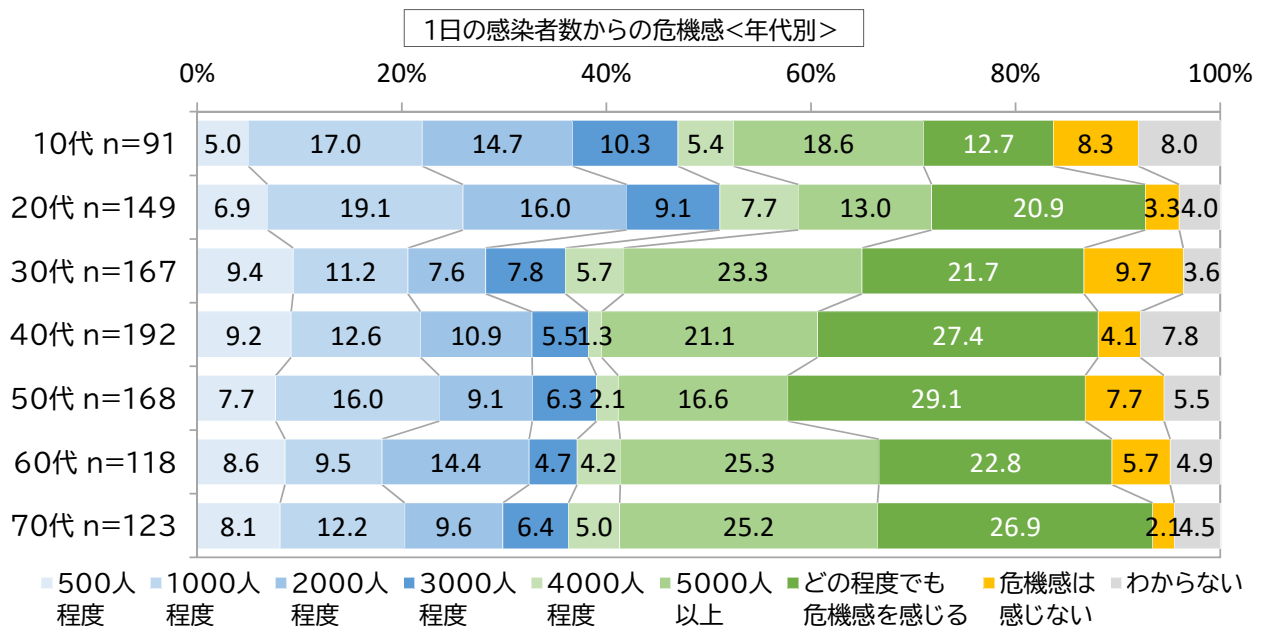
■ 公表される感染関連数値について

1日の感染者数からの危機感

- 1日「どの程度でも危機感を感じる」が23.8%となっており、感染者数の多い・少ないではなく、「感染者」そのものに危機感を感じる人が最も多かった。
- 一方で数値的な危機感では「1日5000人以上」が20.3%、「1日1000人程度」が13.9%となり、かなり多い感染者人数でないと危機感への気づきにならない人も多い。

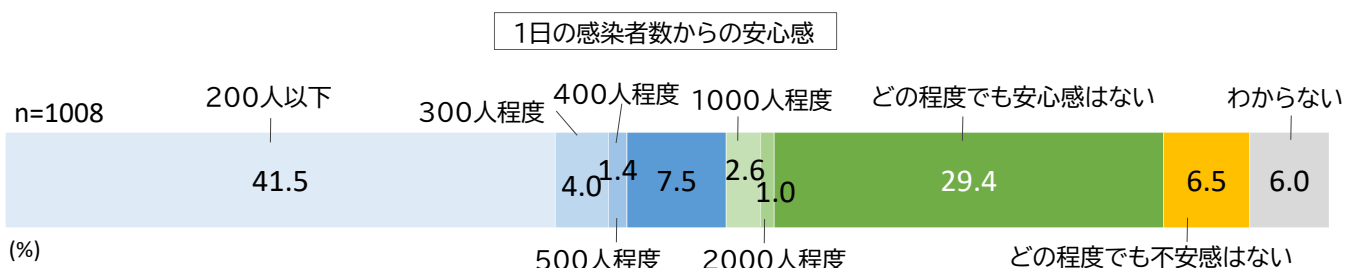


- 年代別では直近の若い世代の感染者の増加傾向からか「10代」では「1000人程度」でも17.0%、同様に「20代」でも、「1000人程度」で19.0%が危機感を持っている。



1日の感染者数からの安心感

- 1日の感染者数がどの程度であれば安心感があるかについては、「1日200人以下」が41.5%と最も多く、次いで「どの程度でも安心感はない」が29.4%となり、感染者数からの数値的な安心感は感者数的にはかなり少ない数値を想定している。
- 1日200人程度となると東京都では2021年2月末～3月末となり、相当な対応が必要となる。

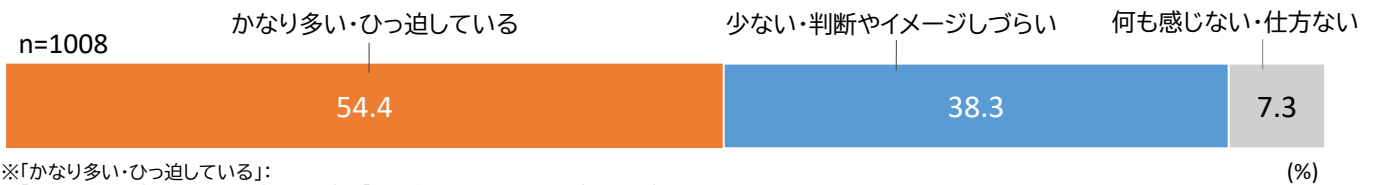


■ 公表される感染関連数値について

1日の重症者数について

- 「ひっ迫している」と想定している人は29.2%、「かなり多い人数だと感じる」が25.2%でこれらを加えた54.4%と約半数は「かなり多い・ひっ迫している」との危機感を持っている。
- しかし、一方で「重症者の確保病床数と重症者数の関係が理解できず多いか少ないか判断ができない」とする回答が15.4%、「感染者数にしては少ないイメージ」が10.6%など「少ない・判断やイメージしづらい」と感じている人は38.3%おり、重症者数の訴求の仕方が課題となる。

重症者数からの危機感



※「かなり多い・ひっ迫している」:

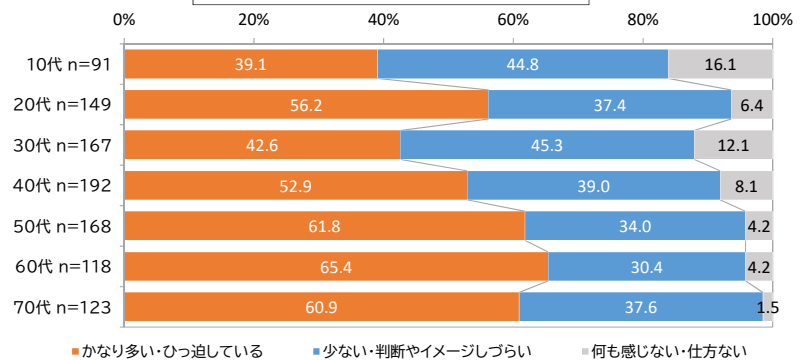
「かなり多い人数だと感じる」(25.2%) + 「ひっ迫していると感じる」(29.2%)

※「少ない・判断やイメージしづらい」:

「感染者数にしては少ないイメージ」(10.6%) + 「確保病床に対してはあまり多くないイメージ」(3.9%) + 「あまり多くはなくどれほどひっ迫しているかのイメージがつかみづらい」(8.5%) + 「重症者の確保病床数と重症者数の関係が理解できず多いか少ないか判断ができない」(15.4%)

- 年代別では、「10代」と「30代」が同傾向であり、「少ない・判断やイメージしづらい」との回答が他年代よりも多く「30代」では45.3%、「10代」では44.8%と概ね半数弱が重症者数からのイメージができないとしている。

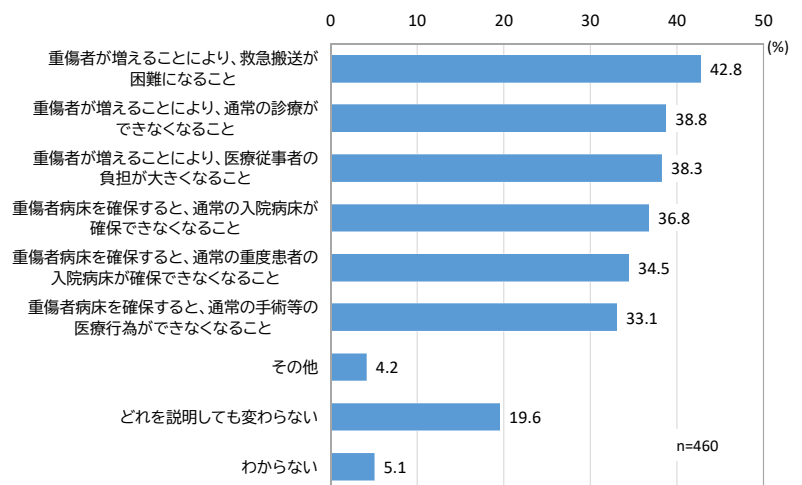
重症者数からの危機感<年代別>



発表される「重症者数」に対する危機感を持つための訴求内容

- 現状、重症者数の発表数値で危機感等が「少ない・判断やイメージしづらい」「何も感じない・仕方ない」との感覚を持っている人(n=460)に、どのような説明が望ましいか聞いた。
- 「重傷者が増えることにより、救急搬送が困難になること」の説明との回答が42.8%と最も多い。
- 次いで「通常の診療ができなくなること」が38.8%、「医療従事者の負担が大きくなること」が38.3%となり、重症者数との連関でどのような医療状況になるかを明確に説明することへのニーズが多い。

「少ない・判断やイメージしづらい」「何も感じない・仕方ない」と回答した人の訴求内容ニーズ



※「感染者数にしては少ないイメージ」「確保病床に対してはあまり多くないイメージ」「あまり多くはなくどれほどひっ迫しているかのイメージがつかみづらい」「重症者の確保病床数と重症者数の関係が理解できず多いか少ないか判断ができない」とのようにも感じない「仕方がない」と回答した人ベース

■ 公表される感染関連数値について

1日の入院者数について

- 「かなり多い人数」と想定している人は31.2%、「ひっ迫している」が31.5%でこれらを加えた「かなり多い・ひっ迫している」との回答は62.7%となり、3人に2人は危機感を持っている。これは「重症者数」よりも若干多くなっている。
- 一方で「どれほどひっ迫しているかのイメージがつかみづらい」とする回答が16.8%、「多いか少ないか判断ができない」が8.2%など、「少ない・判断やイメージしづらい」と感じている人は32.7%おり、「1日の重症者数」と同様な傾向となる。



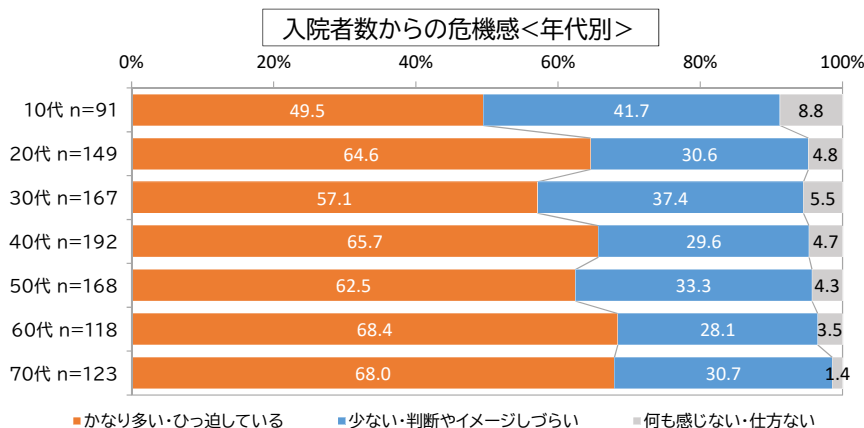
※「かなり多い・ひっ迫している」:

「かなり多い人数だと感じる」(31.2%) + 「ひっ迫していると感じる」(31.5%)

※「少ない・判断やイメージしづらい」:

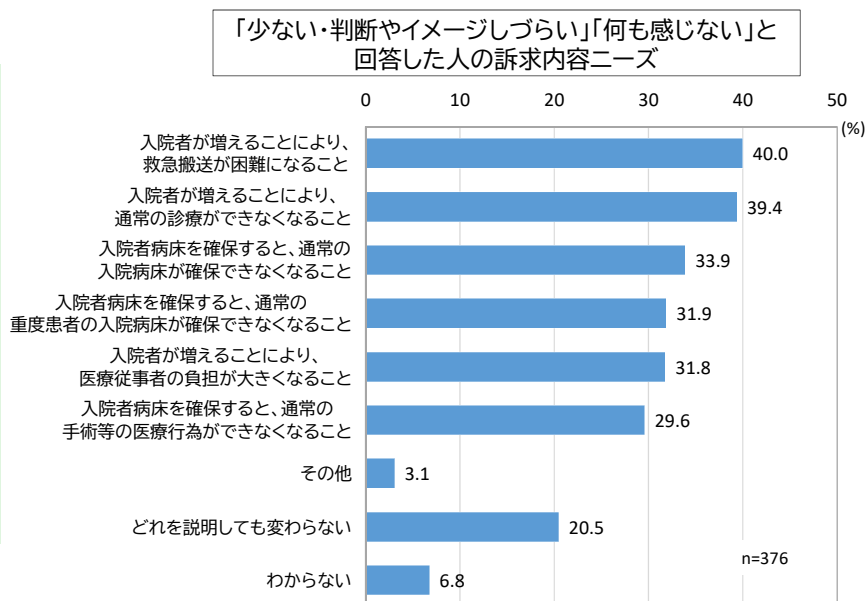
「感染者数にしては少ない」(5.1%) + 「確保病床に対してはあまり多くない」(2.6%) + 「どれほどひっ迫しているかのイメージがつかみづらい」(16.8%) + 「多いか少ないか判断ができない」(8.2%)

- 年代別では「1日の重症者数」と同様に「10代」と「30代」で「少ない・判断やイメージしづらい」との回答が他の年代よりも多く、特に「10代」では41.7%となっている。



発表される「入院者数」に対する危機感を持つための訴求内容

- 現状、入院者数の発表数値で危機感等が「少ない・判断やイメージしづらい」「何も感じない」との感覚を持っている人(n=376)に、どのような説明が望ましいか聞いた。
- 「入院者が増えることにより、救急搬送が困難になること」の説明との回答が「重症者数」と同様に最も多く、40.0%となる。
- 次いで「通常の診療ができなくなること」が39.4%と同程度となっている。
- 「入院者数」も「重症者数」と同様に、その数値ではどのような医療状況になるかを明確に説明することへのニーズが多い。



※「感染者数にしては少ないイメージ」「確保病床に対してはあまり多くない」「どれほどひっ迫しているかのイメージがつかみづらい」「多いか少ないか判断ができない」「特になにも感じない」と回答した人ベース

■ 公表される感染関連数値について

1日の陽性率について

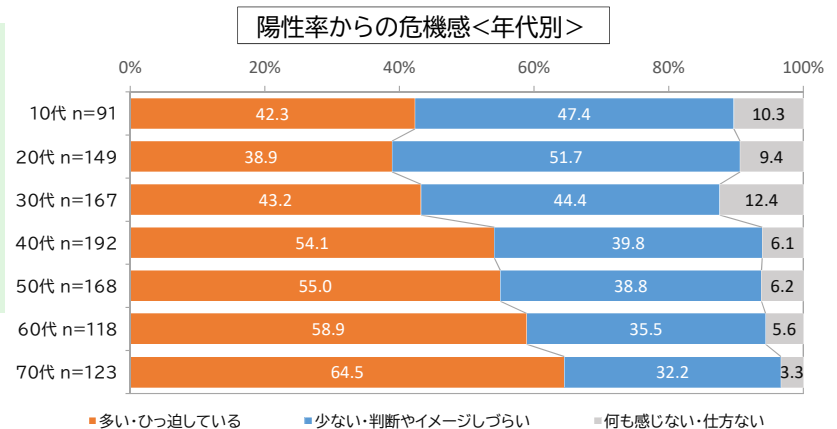
- 「かなり高い陽性率だと感じる」が35.7%、「ひっ迫していると感じる」が15.3%となりこれらを加えた「高い・ひっ迫している」との回答は51.0%と約半数は危機感を持っている。「1日の重症者数」「入院者数」よりも低い。
- 一方で「多いか少ないか判断ができない」が22.0%、「どれほどひっ迫しているかのイメージがつかみづらい」12.5%など「少ない・判断やイメージしづらい」と感じている人は41.4%おり、「何も感じない」(7.6%)を加えると、おおむね半数が数値から危機感等を想起できない。



※「高い・ひっ迫している」:
「かなり高い陽性率だと感じる」(35.7%) + 「ひっ迫していると感じる」(15.3%)

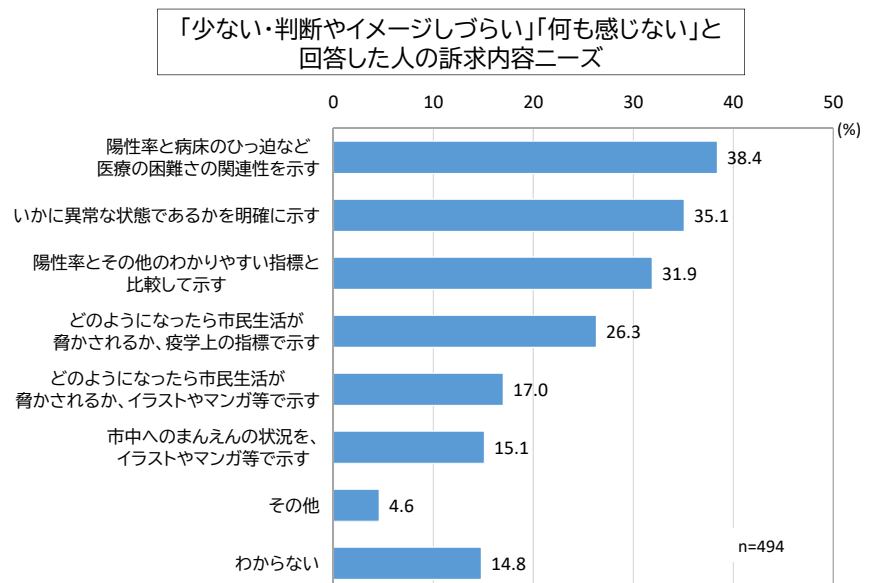
※「少ない・判断やイメージしづらい」:
「検査数に対しては少ない」(6.9%) + 「どれほどひっ迫しているかのイメージがつかみづらい」(12.5%) + 「多いか少ないか判断ができない」(22.0%)

- 年代別では「1日の重症者数」「入院者数」「病床のひっ迫・医療崩壊」など同様に「10代」「30代」で「少ない・判断やイメージしづらい」とする回答が多い。
- また、陽性率の特徴は「20代」で51.7%が「少ない・判断やイメージしづらい」としている点である。要するに陽性率「約20%台」をどうイメージするか、わからない若い世代が多い。



発表される「陽性率」に対する危機感を持つための訴求内容

- 現状、陽性率の発表数値で「少ない・判断やイメージしづらい」「何も感じない」との感覚を持っている人 (n=494) に、どのような説明が望ましいか聞いた。
- 「陽性率と病床のひっ迫など医療の困難さの関連性を示す」との回答が38.4%、「いかに異常な状態であるかを明確に示す」が35.1%、「陽性率とその他のわかりやすい指標と比較して示す」が31.9%となり、パーセンテージの数値のみの判断ではなく、その状況を説明することへのニーズが多い。



※「検査数に対しては少ない」「どれほどひっ迫しているかのイメージがつかみづらい」「多いか少ないか判断ができない」「特になにも感じない」と回答した人ベース

■ 公表される感染関連数値について

公表されるキーワードに対する感覚(「病床のひっ迫」「医療崩壊」)について

- 毎日見聞きする「病床のひっ迫」「医療崩壊」というキーワードについての感覚を聞いた。
- 「内容は理解でき、かなり危機感がある」と想定した人は42.1%、「内容は理解でき、やや危機感はある」の18.4%を加えた「危機感がある」との回答は60.5%と、3人に2人は危機感を持っている。
- しかし一方で、「医療崩壊の基準がわかりづらい」18.6%や「病床ひっ迫の基準がわかりづらい」など「基準や状況がわかりづらい」と感じている人は35.3%おり、「重症者数」「入院者数」と同様な傾向となる。



※「危機感がある」:

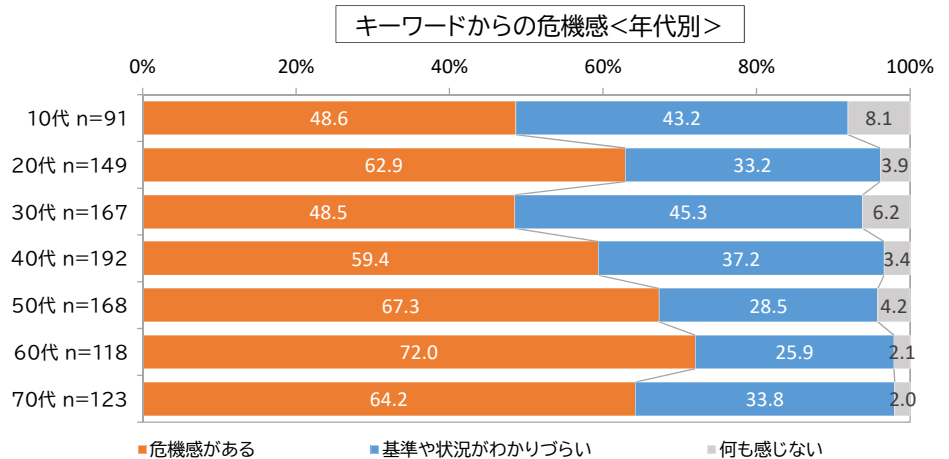
「内容は理解でき、やや危機感はある」(18.4%) + 「内容は理解でき、かなり危機感がある」(42.1%)

(%)

※「基準や状況がわかりづらい」:

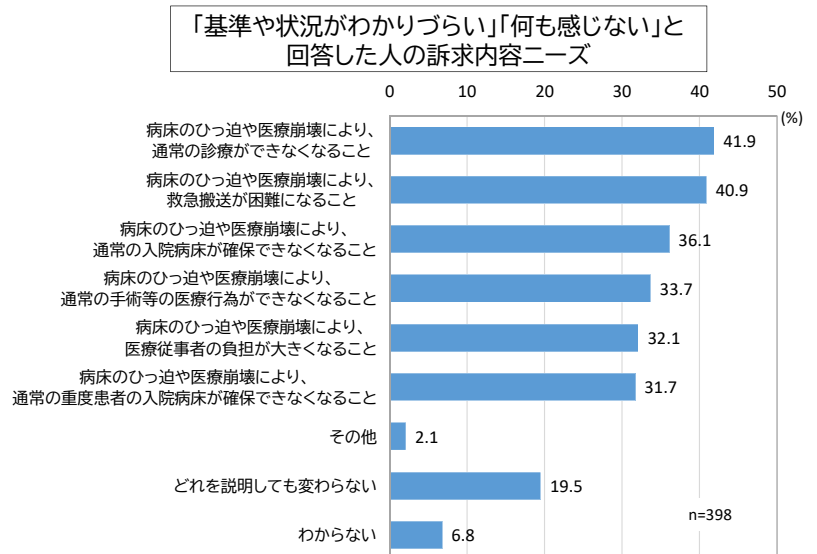
「病床ひっ迫の基準がわかりづらい」(9.3%) + 「医療崩壊の基準がわかりづらい」(18.6%) + 「医療崩壊が起こることによって生じる状況が理解しづらい」(7.4%)

- 年代別では「1日の重症者数」「入院者数」と同様に「10代」と「30代」で「基準や状況がわかりづらい」との回答が他の年代よりも多く「30代」で45.3%、「10代」で43.2%となっている。



「病床のひっ迫」「医療崩壊」に対する危機感を持つための訴求内容

- 現状「病床のひっ迫」「医療崩壊」のキーワードから「基準や状況がわかりづらい」「何も感じない」との感覚を持っている人(n=398)にどのような説明が望ましいか聞いた。
- 「病床のひっ迫や医療崩壊により通常の診療ができなくなる」と41.9%と最も多く、次いで「救急搬送が困難になること」が40.9%となり、これらとの連関でどのような医療状況になるかを明確に説明することへのニーズが多い。



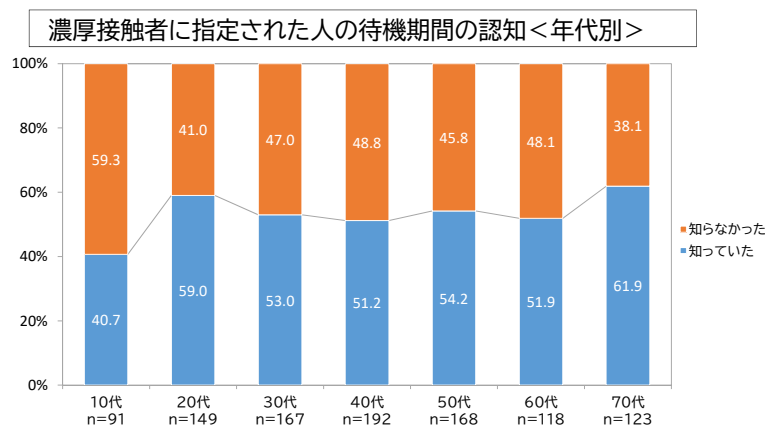
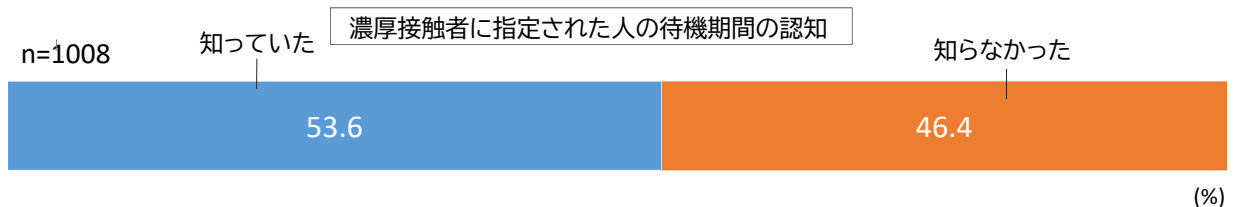
※「病床ひっ迫の基準がわかりづらい」「医療崩壊の基準がわかりづらい」「医療崩壊が起こることによって生じる状況が理解しづらい」「特になにも感じない」と回答した人ベース

■ ■ 自分が感染した場合の他者への影響(濃厚接触者の待機期間の認識)

自分の濃厚接触者に指定された人の待機期間の認知について(他者に与える影響)

※同居家族有で自分が陽性者となった場合、陽性者との最終接触日+14日間が同居家族の待機期間を例示

- 自分が陽性者となり家族等が濃厚接触者に指定された場合の待機期間について、全体では「知っていた」が53.6%、「知らなかった」が46.4%となり、概ね半数が認識している。
- 「知らなかった」との回答は、年代別では「10代」が59.3%と最も多く、他の年代と比べても非認知の状況が顕著である。



自分が陽性になり、他者に与える影響や現状の感染拡大を受けての行動変容について

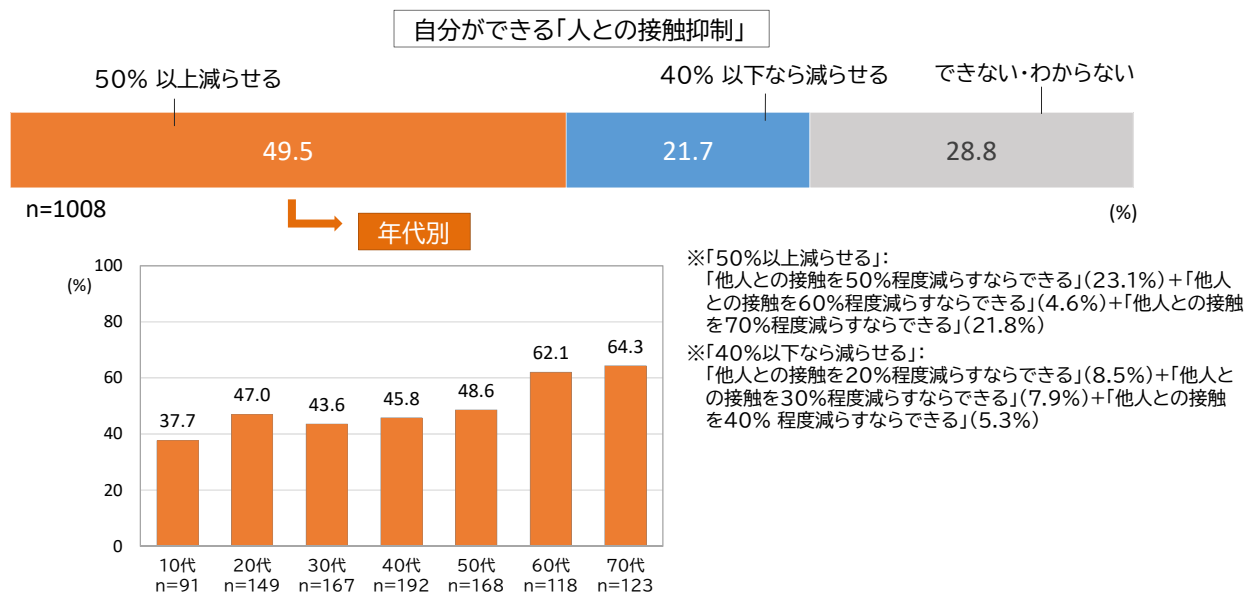
- 全体では「なるべく人との接触を控える」が71.6%と最も多く、次いで「外出時はマスクを必ず着用する」が68.6%、「手指の消毒を徹底する」が61.5%となり、これらが主な行動。
- 一方で「家族以外との飲食は控える」は53.5%、「家族以外とのマスク無しでの会話はしない」45.3%と概ね半数に留まる。
- 「特にない」との回答は6.8%とごくわずかである。
- 年代別に特徴的な傾向を見ると、「10代」では他年代よりも多くの項目で低率となり、「マスクは不織布のものにする」や「家族以外とのマスク無しでの会話はしない」「買い物やショッピングは最低限に抑える」では行動変容が少ない。

	なるべく人との接触を控える	外出時はマスクを必ず着用する	手指の消毒を徹底する	家族以外との飲食は控える	大規模イベントやスポーツ観戦等多くの人が集まるところへの参加を控える	買い物やショッピングは最低限に抑える	マスクは不織布のものにする	帰省や旅行は控える	商業施設や繁華街などへ行くことを控える	家族以外とのマスク無しでの会話はしない	飲酒は自宅に限る	その他	特にない
全体 n=1008	71.6	68.6	61.5	53.5	52.1	50.1	47.3	47.0	45.7	45.3	41.9	2.5	6.8
10代 n=91	56.8	54.9	43.9	35.2	32.0	26.1	33.6	21.3	25.2	24.1	9.5	-	10.2
20代 n=149	70.6	67.1	54.9	47.9	50.9	47.6	37.2	38.4	43.9	33.3	42.6	0.6	7.3
30代 n=167	68.2	67.4	57.8	49.7	47.5	44.3	45.2	41.6	39.1	35.6	36.5	2.2	8.2
40代 n=192	73.9	66.1	64.4	60.6	52.1	47.5	49.5	52.5	44.0	54.4	50.4	4.5	4.8
50代 n=168	70.6	69.9	64.4	61.6	55.9	53.8	53.2	53.9	52.4	52.6	49.1	3.5	6.3
60代 n=118	73.2	74.8	66.4	50.2	57.7	61.4	50.3	57.7	55.3	48.3	45.2	2.9	8.6
70代 n=123	84.3	78.7	74.2	59.7	64.1	66.8	58.0	55.2	56.7	62.0	46.0	2.1	4.1

■ 感染抑制としての「人との接触」について

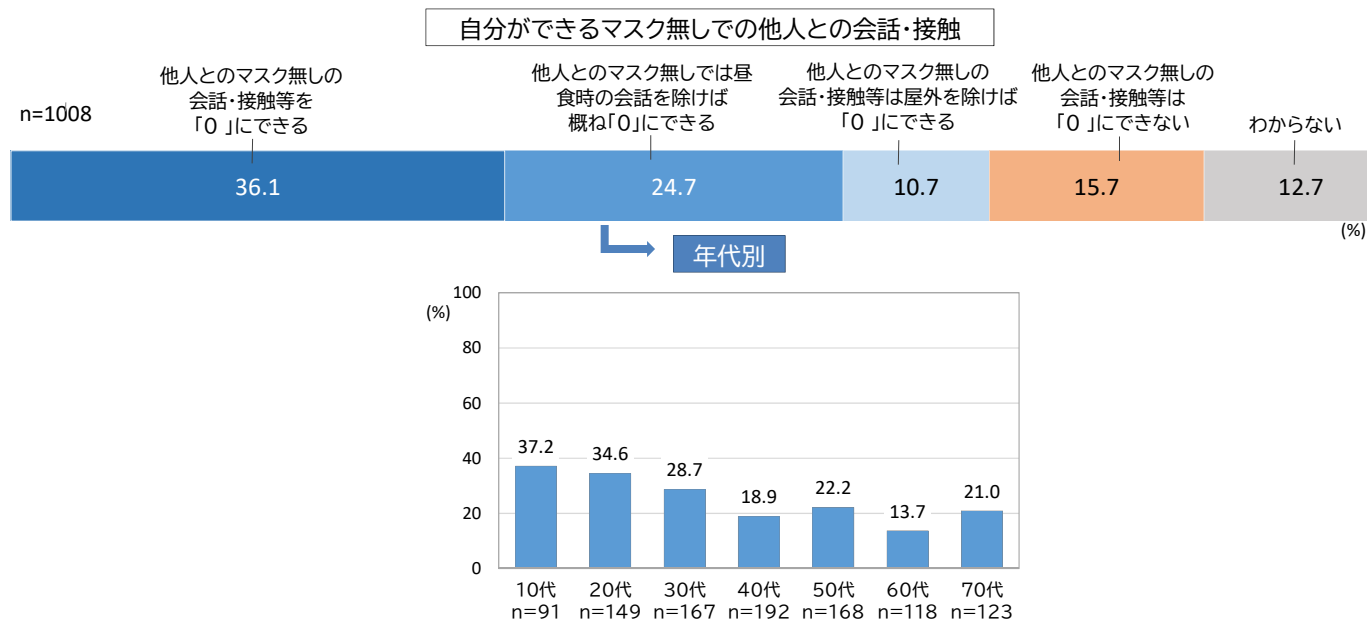
自分ができる接触抑制

- 自分ができる「人との接触抑制」の割合については、「他人との接触を50%程度減らすならできる」が23.1%と最も多く、次いで「他人との接触を70%程度減らすならできる」が21.8%となり、これらを加えた「50%以上減らせる」人は49.5%と約半数となった。
- また、この傾向は60代以上では60代で62.1%、70代で64.3%と多くなるが、一方で10代では37.7%と少なくなる。



他人とのマスク無しでの会話・接触の抑制

- 自分ができるマスク無しでの他人との会話・接触については「他人とのマスク無しでの会話・接触を「0」にできる」が36.1%と最も多く、次いで「他人とのマスク無しでは昼食時の会話を除けば概ね「0」にできる」が24.7%である。一方で「他人とのマスク無しでの会話・接触等は「0」にできない」が15.7%、「わからない」が12.7%であった。
- 「他人とのマスク無しでは昼食時の会話を除けば概ね「0」にできる」との回答は、「10代」で37.2%と最も多く、次いで「20代」で34.6%となり、10~20代の若い世代では昼食時のマスク無し会話を抑制できる可能性が他よりも低い。

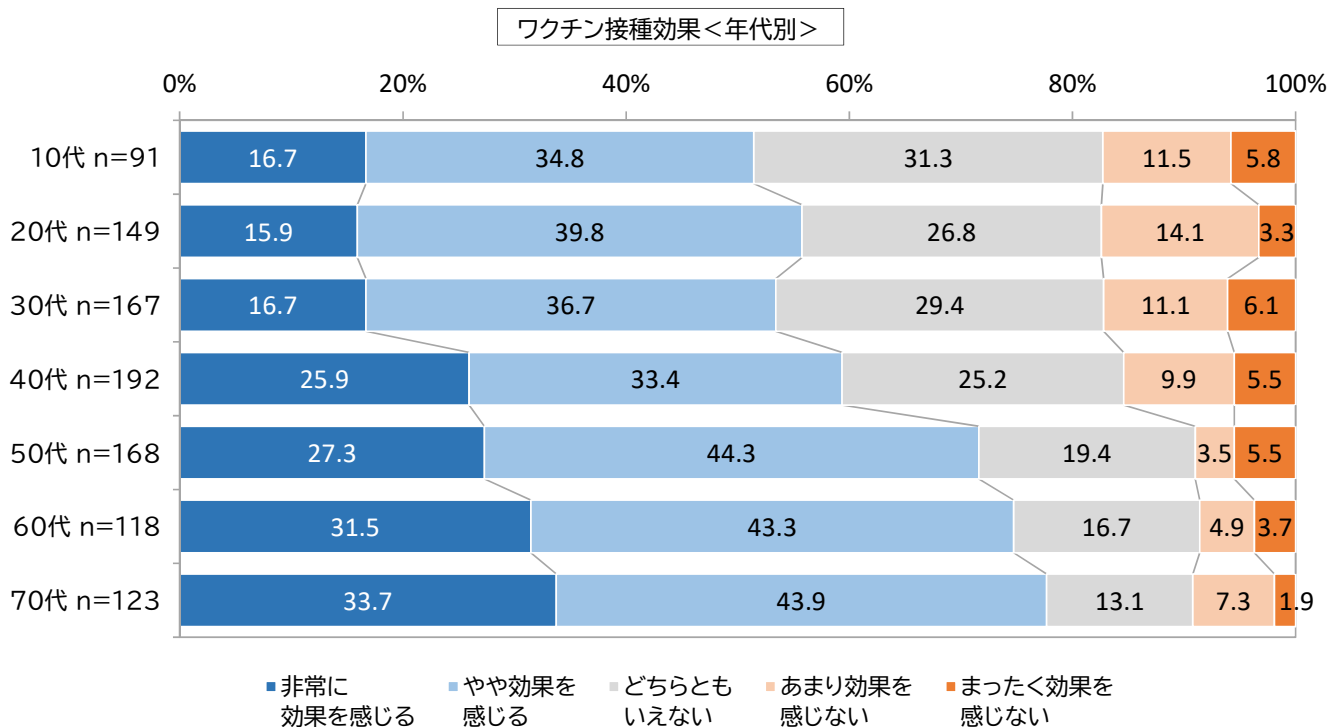
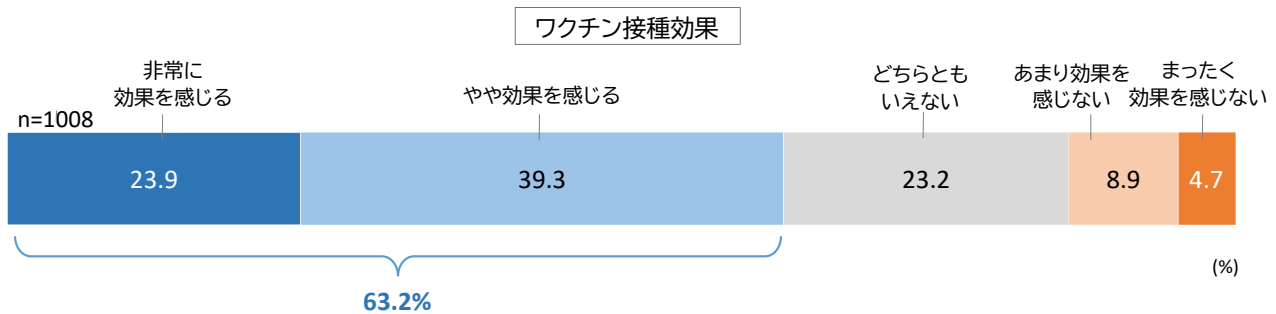


■ ワクチン接種の効果について

東京都の直近の感染者数の年代別内訳結果での「ワクチン接種効果」について

※8月11日新規感染者数4200人 10代以下603人、20代1262人、30代867人、40代727人、50代485人、65代以上256人 例示

- 直近の新規感染者数の年代内訳からの「ワクチン接種」効果の考えについては、全体では「やや効果を感じる」が39.3%、「非常に効果を感じる」が23.9%となり、これらを加えた63.2%は効果を感じている。
- 「非常に効果を感じる」との回答は年代が高くなるにつれて多くなり、年代間において差が見られている。

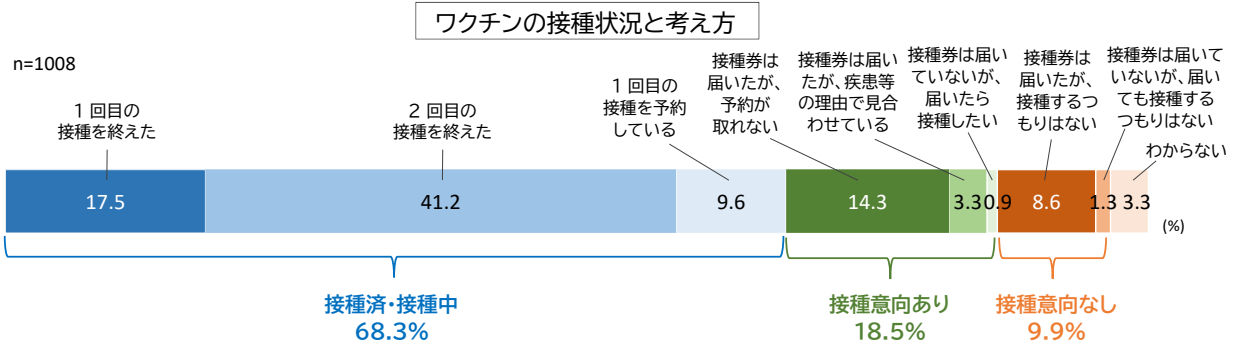


ワクチン接種状況や今後の考え方

ワクチン接種状況

※接種は「一般・職域・医療従事」含めたもの

- 自分のワクチン接種は全体では「2回目の接種を終えた」が41.2%、「1回目の接種を終えた」が17.5%とこれらを加えた58.7%の人が1回以上の接種を終えている。
- また「接種券は届いたが、予約が取れない」が14.3%いる。
- 一方で「接種券は届いたが、接種するつもりはない」は8.6%、「接種券は届いていないが、届いても接種するつもりはない」は1.3%となり、これらを加えた全体の9.9%は明確に接種するつもりはないとしている。



ワクチン非接種の今後の考え方

- 現時点でワクチン接種をしていない人(n=321)をベースに「接種するつもりはない」「わからない」人の割合を見ると、どの年代でも40%程度の人には接種意向が無い等となっている。

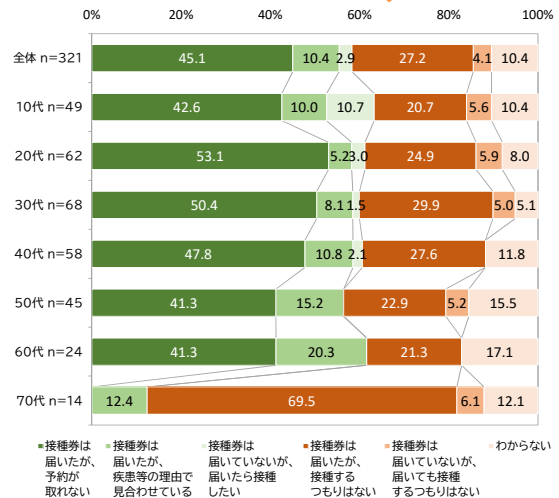
非接種・非予約者ベース(n=321)

「接種券は届いたが、予約が取れない」、「接種券は届いたが、疾患等の理由で見合わせている」、「接種券は届いていないが、届いたら接種したい」と回答した人がベース(n=188)

「接種券は届いたが、接種するつもりはない」、「接種券は届いていないが、届いても接種するつもりはない」、「わからない」と回答した人がベース(n=133)

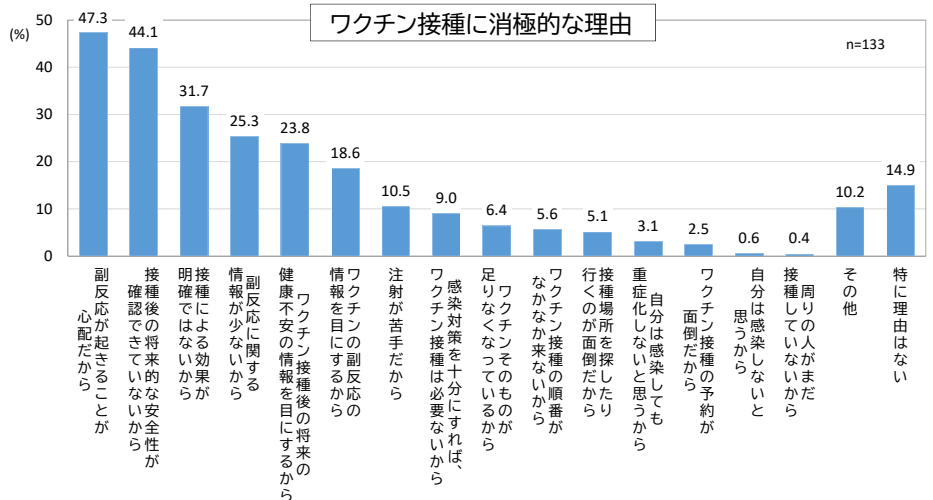
接種意向有

接種意向無



ワクチン接種に消極的理由

- 現時点でワクチン接種をしておらず、なおかつ「接種するつもりはない・わからない」という消極的な人(n=133)のその理由を聞いた。
- 最も多いのは「副反応が起きることが心配だから」が47.3%、次いで「接種後の将来的な安全性が確認できていないから」が44.1%、「接種による効果が明確ではないから」が31.7%となり、これらが主な要因となっている。

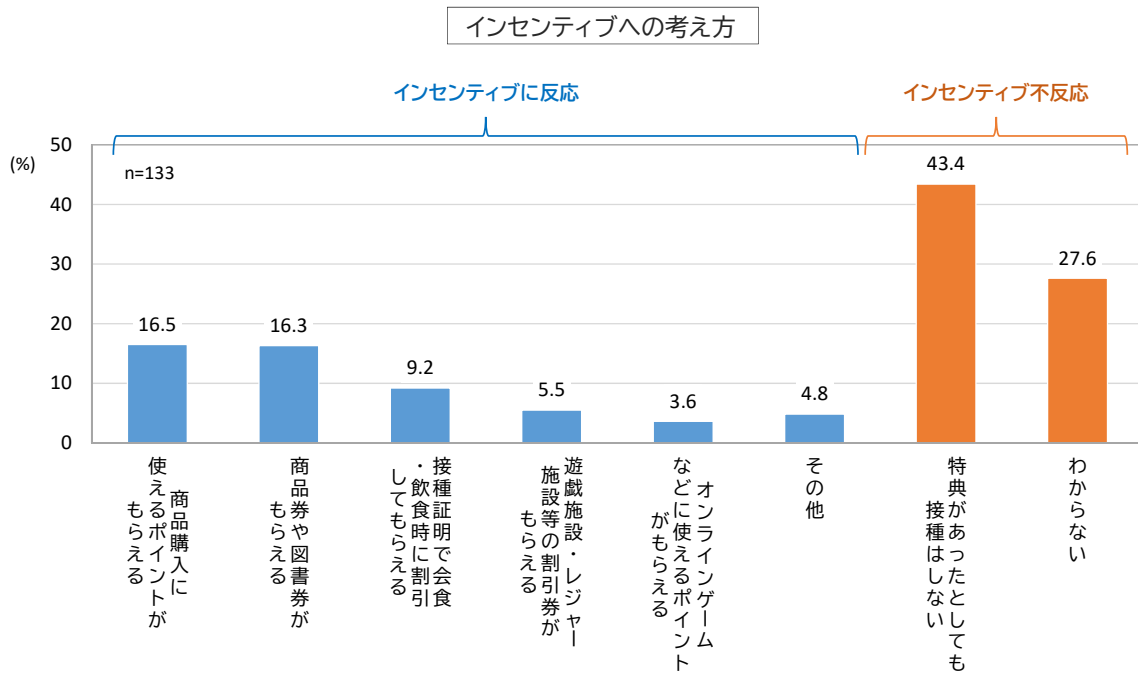


※「接種券は届いたが、接種するつもりはない」、「接種券は届いていないが、届いても接種するつもりはない」、「わからない」と回答した人がベース(n=133)

■ ワクチン接種状況や今後の考え方

ワクチン非接種意向者のインセンティブへの考え方

- 現時点でワクチン接種をしておらず、「今後も接種するつもりはない・わからない」(n=133)人に接種におけるインセンティブについて聞いた。
- 「特典があったとしても接種はしない」との回答が43.4%と最も多く、次いで「わからない」が27.6%と、これらを加えた71%、概ね3人に2人はインセンティブには反応していない。
- 一方で、3人に1人はインセンティブに反応しており、「商品購入に使えるポイントがもらえる」が16.5%、「商品券や図書券がもらえる」が16.3%となっている。

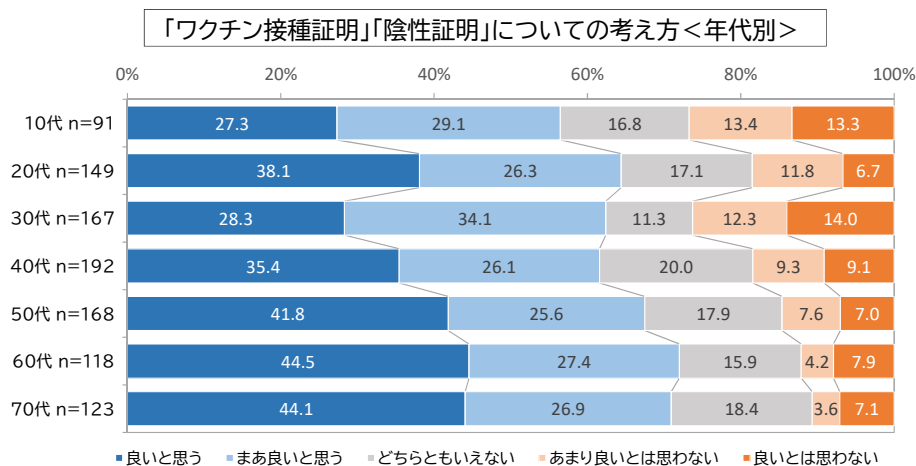
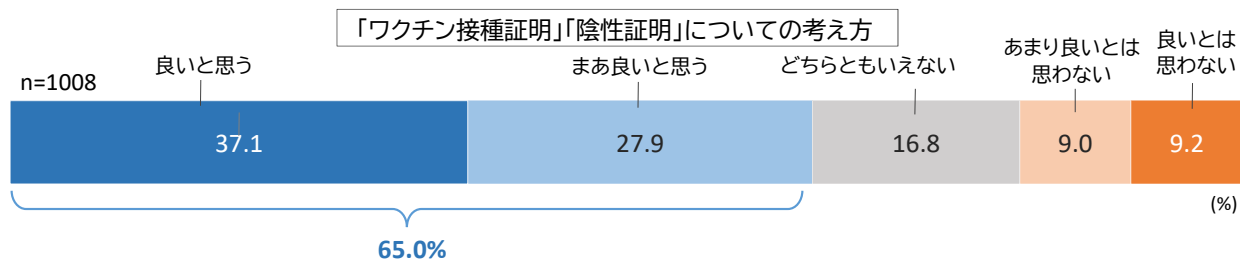


※「接種券は届いたが、接種するつもりはない」「接種券は届いていないが、届いても接種するつもりはない」「わからない」と回答した人ベース

将来的なデフォルト要素としての「ワクチン接種証明」「陰性証明」についての考え方

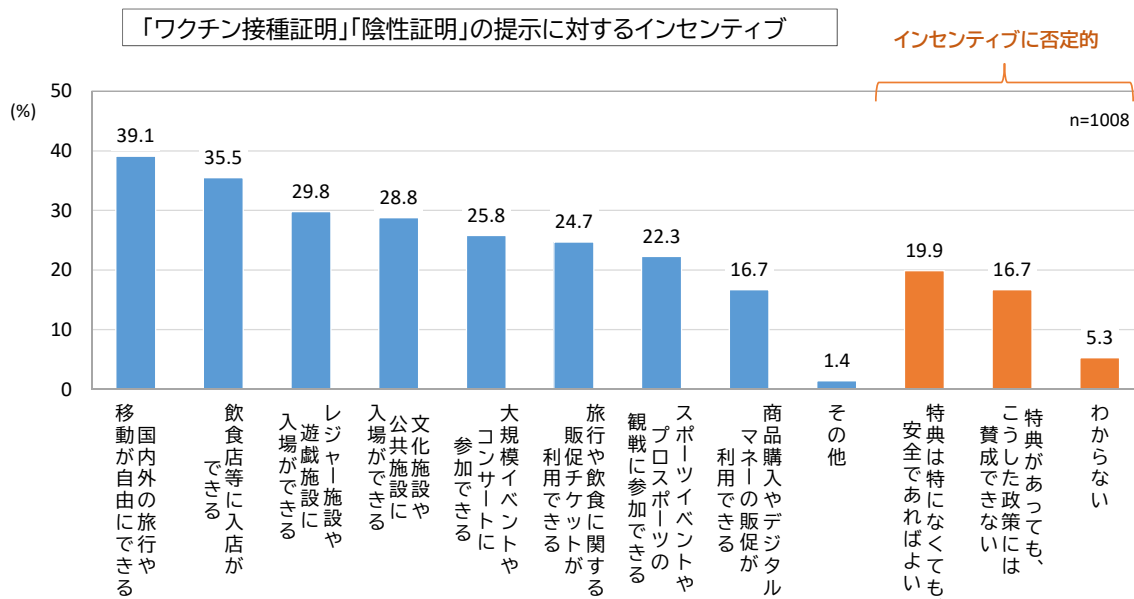
一部の海外諸国での「ワクチン接種証明」「陰性証明」提示規定について

- これらの提示規定については全体では「良いと思う」が37.1%と最も多く、次いで「まあ良いと思う」が27.9%となり、これらを加えた65%が肯定的となった。
- 一方「良いとは思わない」が9.2%、「あまり良いとは思わない」が9.0%と否定的な回答は、これらを加えた18.2%であった。



「ワクチン接種証明」「陰性証明」の提示に対するインセンティブについて

- インセンティブのしくみについては、「国内外の旅行や移動が自由にできる」が39.1%と最も多く、次いで「飲食店等に入店ができる」が35.5%となり、この両項目への回答が主となっている。

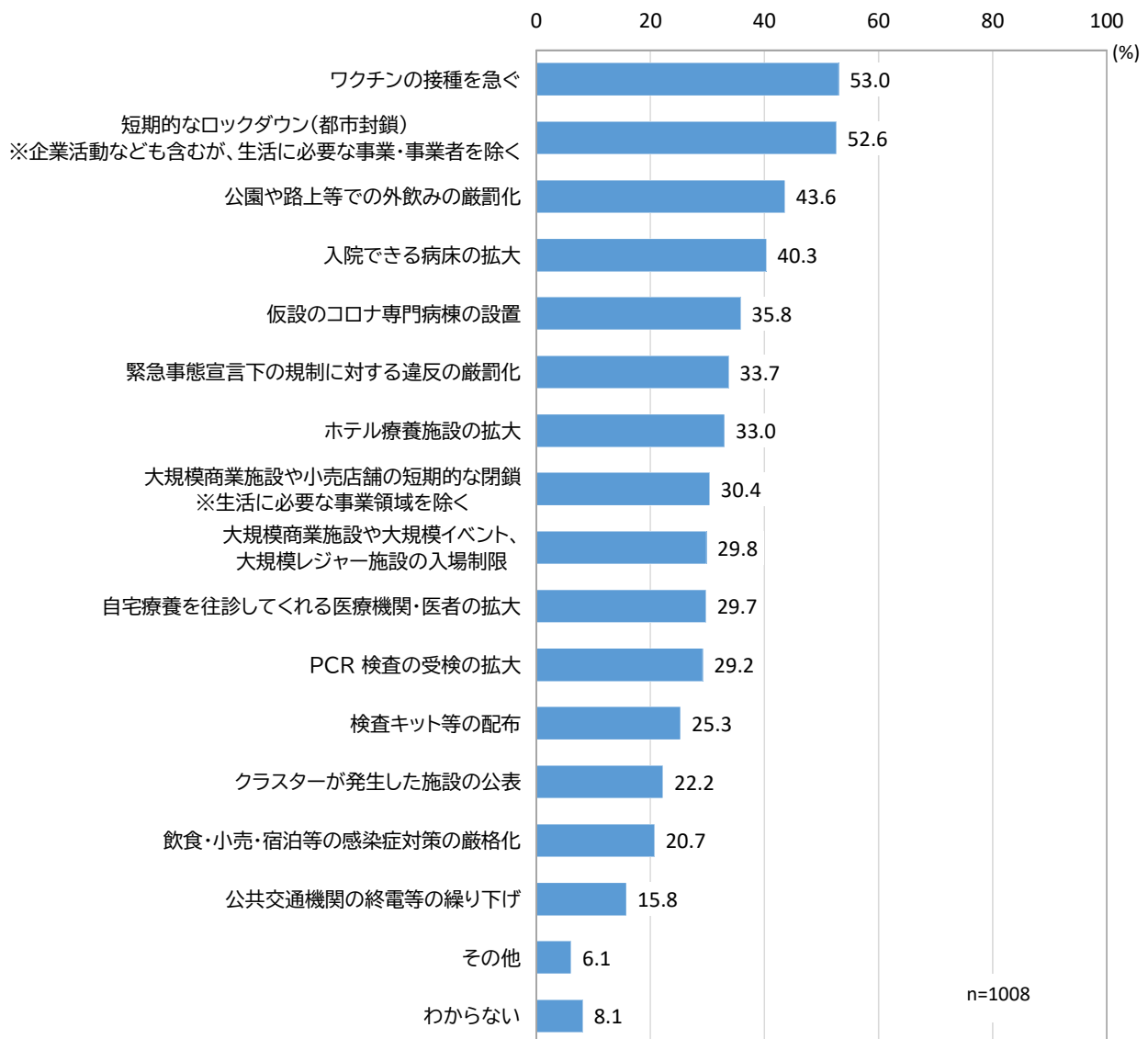


東京都の感染拡大抑制施策についての考え方

感染拡大の対策について

- 感染拡大への対策としては、「ワクチンの接種を急ぐ」が53.0%と最も高く、次いで「短期的なロックダウン(都市封鎖)※企業活動なども含むが、生活に必要な事業・事業者を除く」が52.6%、「公園や路上等での外飲みの厳罰化」が43.6%、「入院できる病床の拡大」が40.3%、「仮設のコロナ専門病棟の設置」が35.8%となり、これらが上位5位の項目となる。

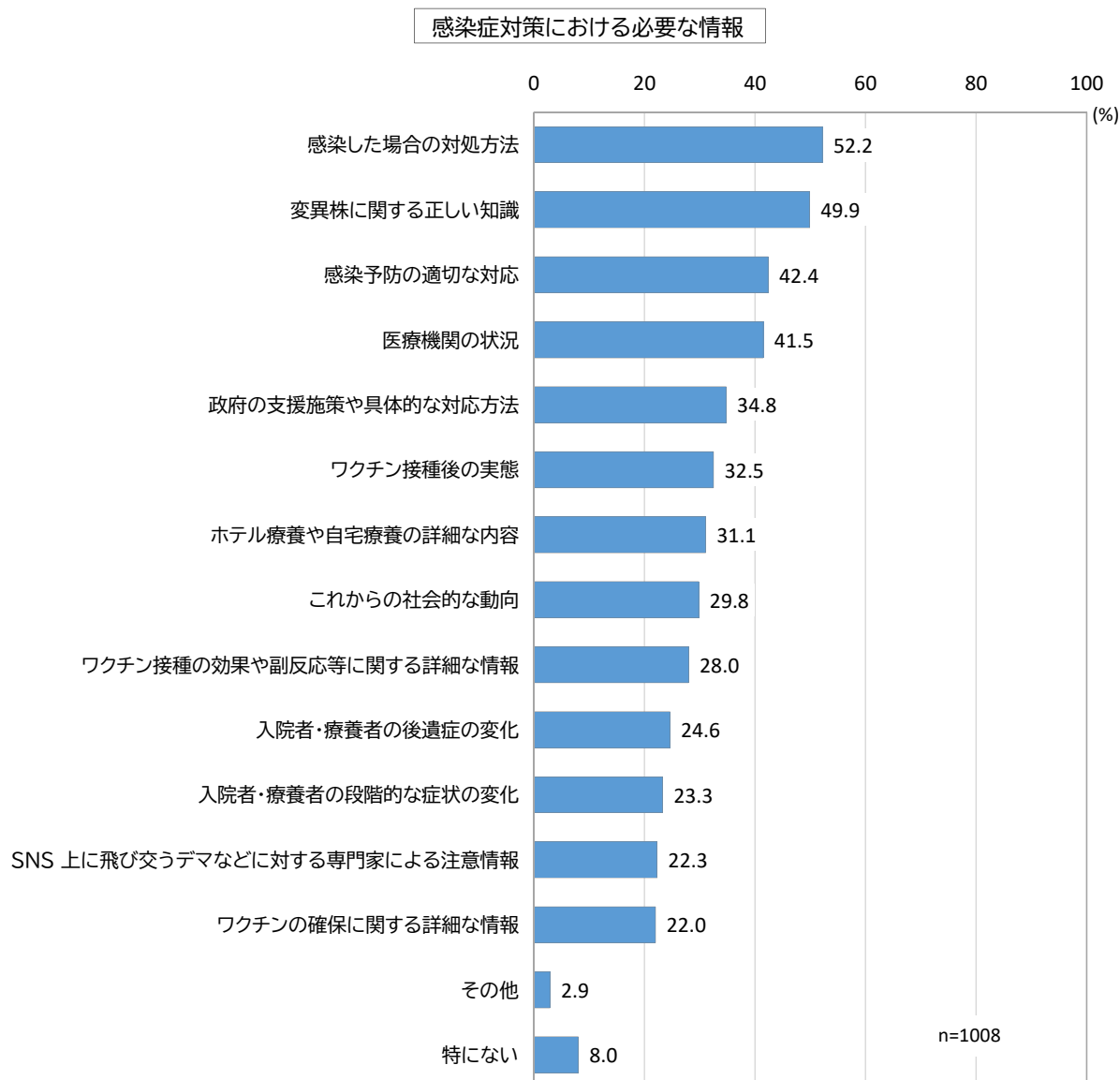
東京都の感染拡大に効果的な対策



■ 自身の感染症対策における必要な情報

必要な情報について

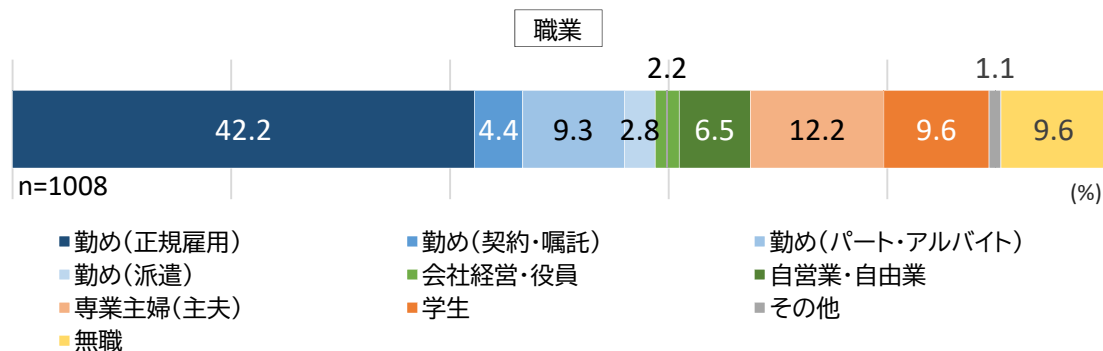
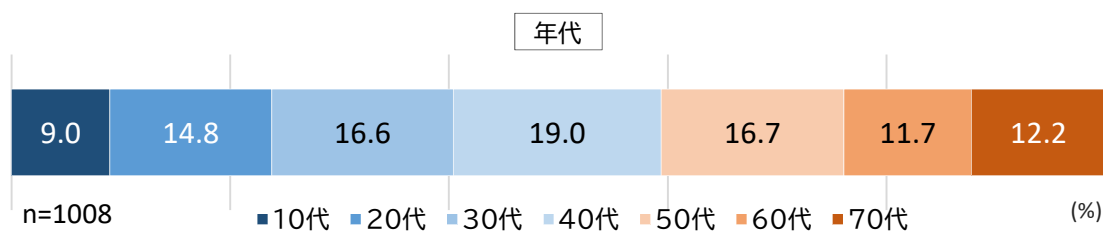
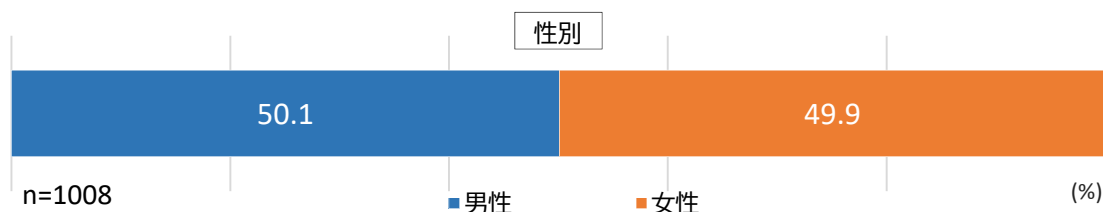
- 必要な情報については「感染した場合の対処方法」が52.2%と最も多く、次いで「変異株に関する正しい知識」が49.9%、「感染予防の適切な対応」が42.4%、「医療機関の状況」が41.5%、「政府の支援施策や具体的な対応方法」が34.8%となり、これらが上位5位となる。



調査実施概要(第5回新型コロナウイルス感染症に関する調査 東京都民アンケート)

● 調査地域	東京都
● 調査方法	インターネット調査(インターネットリサーチモニターに対するクローズド調査)
● 調査対象	15歳以上男女モニター
● 有効回答	①性年代別(15歳以上から70歳代) 各72サンプル割付回収(全1008サンプル回収) ※上記の設定で回収し、性年代別の東京都の区・市部年齢別人口を使用し拡大集計
● 調査内容	基本属性/感染症に関する不安/感染・重篤化への不安/感染症関連指標の理解/感染防止策/感染拡大防止のための行動/ワクチン接種とインセンティブ/今後の将来的デフォルトへの意向/感染拡大への対策意向
● 調査期間	2021年(令和3年)8月13日(金)配信開始~8月16日(月)調査終了
● 資料の見方	nと表記がある数値は、構成比(%)算出の基数(調査数)である 構成比(%)は、小数点第二位を四捨五入しており、合計が100.0にならない場合がある M.A.と表記がある設問は、多肢式(複数回答可)のため、合計は100%以上となる

調査対象者の概要



居住地

(%)

n	千代田区	中央区	港区	新宿区	文京区	台東区	墨田区	江東区	品川区	目黒区	大田区	世田谷区	渋谷区	中野区	杉並区	豊島区	北区	荒川区	板橋区	練馬区	足立区	葛飾区	江戸川区	八王子市
1008	0.4	1.4	2.0	3.4	1.7	1.4	1.8	4.6	3.1	1.6	5.5	7.9	1.2	2.2	4.5	2.3	2.2	2.1	3.2	5.4	4.3	2.4	5.2	4.4

立川市	武蔵野市	三鷹市	青梅市	府中市	昭島市	調布市	町田市	小金井市	小平市	日野市	東村山市	国分寺市	国立市	福生市	狛江市	東大和市	清瀬市	東久留米市	武蔵村山市	多摩市	稲城市	羽村市	あきる野市	西東京市	その他町村
1.0	1.8	2.7	0.3	2.0	0.7	2.2	2.9	0.5	1.5	1.2	0.5	0.8	1.0	0.1	0.4	0.3	0.5	1.2	0.3	0.8	0.5	0.3	0.3	1.7	0.1

■参考(第1回～第4回全国調査の概要)

1. 過去の4回の調査は全国都道府県を対象としている。第5回調査は東京都のみを対象としている。

- 調査地域 全国
- 調査方法 インターネット調査(インターネットリサーチモニターに対するクローズド調査)
- 調査対象 20歳以上男女モニター
- 有効回答 全国47都道府県 各100サンプル割付回収(全4700サンプル回収)

2. 各調査の実施時期

- 第1回 2020年(令和2年)3月6日(金)配信開始～3月9日(月)調査終了
- 第2回 2020年(令和2年)4月3日(金)配信開始～4月6日(月)調査終了
- 第3回 2020年(令和2年)5月29日(金)配信開始～6月2日(火)調査終了
- 第4回 2020年(令和2年)11月27日(金)配信開始～12月2日(水)調査終了

※各調査結果の概要は、株式会社サーベイリサーチセンターのホームページに掲載している
<https://www.surece.co.jp/research/>

3. 調査実施体制

- 調査主体 株式会社サーベイリサーチセンター
SRC情報総研
- 監修・協力 東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター(第1回、第2回)

■ サーベイリサーチセンター 会社概要

● 会社名	株式会社サーベイリサーチセンター
● 所在地	東京都荒川区西日暮里2丁目40番10号
● 設立	1975(昭和50)年2月
● 資本金	6,000万円
● 年商	78億円(2020年度)
● 代表者	代表取締役 藤澤 士朗、長尾 健、石川 俊之
● 社員数	社員283名、契約スタッフ455名 合計738(2021年3月1日現在)
● 事業所	東京(本社)、札幌、盛岡、仙台、静岡、名古屋、大阪、岡山、広島、高松、福岡、熊本、那覇
● 主要事業	世論調査・行政計画策定支援、都市・交通計画調査、マーケティング・リサーチ
● 所属団体	公益財団法人 日本世論調査協会 一般社団法人 日本マーケティング・リサーチ協会(JMRA) 日本災害情報学会 一般社団法人 交通工学研究会 他
● その他	ISO9001認証取得(2000年6月) プライバシーマーク付与認定(2000年12月) ISO20252認証取得(2010年10月) ISO27001認証取得(2015年11月)※ ※認証区分及び認証範囲: ・MR部及びGMR部が実施するインターネットリサーチサービスの企画及び提供 ・全国ネットワーク部及び沖縄事務所が実施する世論・市場調査サービスの企画及び提供

■ 本件に関するお問い合わせ先

株式会社サーベイリサーチセンター <https://www.surece.co.jp/>

- 広報担当:松下 正人 E-mail:src_support@surece.co.jp
品質部
TEL:03-3802-6779 FAX:03-3802-6729
- 調査担当:石川 俊之 E-mail:ishi_t@surece.co.jp
岩崎 雅宏 E-mail:iwa_m@surece.co.jp
柘植 航大 E-mail:tsuge_ko@surece.co.jp
営業企画本部
TEL:03-3802-6727 FAX:03-3802-7321
- 調査結果の引用にあたっては、調査主体名として
「株式会社サーベイリサーチセンター(東京都)」を必ず明記して利用してください
- 調査結果の無断転載・複製を禁じます
- 本紙に記載している情報は、発表日時点のものです